

奈良医大 地区同窓会

各地区での支部同窓会の活発な活動を期待しています

大阪地区	 上記をクリックで阪奈会の HP に飛びます
京都滋賀地区	京滋奈会 会長：地域医療学講座 赤井靖宏教授 総会が 11 月 9 日（日）に開催されます 詳細は、本ウェブサイトの「新着情報」を参照ください 厳檀 50、52、54、56、58、64、66、68、70、72 号参照
中国四国地区	中国支部同窓会 厳檀 65、69 号参照
名古屋地区	名奈会 厳檀 65 号参照、 同窓会報 1、12 号参照
兵庫県地区	神戸地区同窓会（如月会） 厳檀 62、64、70、72 号参照
九州地区	九州沖縄地区同窓会 厳檀 62、64、67、73 号参照

（厳檀 81 号に、地区同窓会に関する小味淵氏の報告があります）

地区同窓会の情報（活動状況、連絡先）を、このウェブサイトで広報できます。情報をお寄せください。
もし地区同窓会独自のウェブサイトをお持ちの場合、同窓会のウェブサイトとリンクを張れます。

地区同窓会の開催予定がありましたら、同窓会へ情報をお寄せください。ウェブサイトで広報します。
地区同窓会が開催されましたら、会報「厳檀」に投稿をお願いします。写真が多数の場合にはこのウェブサイトも併用できます。

地区同窓会の現況と今後の活動方針

同窓会顧問 小味 潤 智 雄

(昭和40年卒)

奈良県立医科大学医学部医学科の卒業生を対象にして、各地域でそれぞれに活動しておられる同窓会を、総称して「地区同窓会」と呼ぶことにします。

私が会長であった時期の同窓会報『厳樞』第60号に、「地域同窓会の活性化と新規発足を期して」の一文を掲載しております。その内容は、継続して活動されている奈良市地区会、京滋奈会、阪奈会の更なる発展を期待し、以前には活動していたが今は途絶えている同窓会の再開、さらに新たな地域での同窓会の発足を支援していく方針を掲げております。

各地域における、そのような地区同窓会の活動内容としては、医療の新しい動向、診療報酬の動きを見据えた学習会、各分野の有識者の講演や趣味的な同好者の集まりなどがあります。しかし基本的に最も大事なことは、同じ学舎で学んできた同志として人間的な親睦を深めお互いに励ましあい、大学同窓会の活動にも関心を持っていただくことにあるかと思います。

この『厳樞』への投稿から10年が経過しました。同窓会員数も年を追って増加しております。地区同窓会も前述の三地区の会はしっかりとその活動を継続しており、名古屋地区、中国地区、九州地区、神戸市地区において新たな活動が始まっております。今後は更にそのほかの地域での同窓会の発足を期待し、大学同窓会として改めてしっかりと支援をしていきます。

日常の医療活動が忙しい中で地区同窓会を継続し、ましてや新たに立ち上げることは簡単なことではありません。そこで大学同窓会としては次のような支援を続けていきます。

同窓会名簿に都道府県別の一覧を毎回掲載します。

地区同窓会総会の会合資金を、規定に沿って援助します。

地区同窓会総会に大学同窓会の理事・顧問が参加します。

同窓会報『厳樞』に総会記事を掲載していただきます。

地区同窓会から大学同窓会理事を推薦していただきます。

(理事会には遠方からでも WEB で参加が可能です)

今回、何かの参考になればと、『同窓会報』第1号から『厳樞』第80号までに掲載されている地区同窓会関係の記事を拾い上げ、地区ごとに整理してみました。

《注釈》#『同窓会報』は第50号から『厳樞』に名称変更しています。

#同窓生の氏名はすべて敬称略で記載しています。

#『同窓会報』『厳樞』の掲載内容以外はほとんど含まれておらず、記載が不十分であることをお許しく下さい。

《奈良県地区同窓会関係》

地元の奈良県下における地区同窓会の発足の動きがみられたのは、昭和36年頃であり『同窓会報』第1号から2号にかけて北和会、中南和地区会の記載がみられる。その中で吉田 宏(昭和26年卒)、巽 典三(昭和25年卒)により大学同窓会発足を期待する熱い思いと地区同窓会がそ

の後押しをしていこうとする意図がうかがわれる。さらに喜多野邦夫（昭和29年卒）が昭和56年に天理地区、奈良地区、生駒地区、大和郡山地区の各地区に役職を置き奈良県を統括した地区同窓会総会を開催している。その後の同窓会報への記載は、ふたたび吉田 宏（昭和26年卒）により『同窓会報』第7号に「北和会だより」として総会の経過と今後も継続していく考えが述べられている。

しかしそれ以後は長期にわたり投稿記事は見られず、『同窓会報』第38号に平野貞治（昭和28年卒）が「奈良地区同窓会」としての掲載がある。そして北村 弥（昭和43年卒）、井谷 均（昭和51年卒）により「奈良医大奈良地区同窓会」の活動が『厳檀』第72号まで継続して掲載されている。

〈『同窓会報』・『厳檀』 掲載〉

- # 「風荒ぶなか」 『同窓会報』第1号 吉田 宏 昭和26年卒（北和会会長）
- # 「奈良医大同窓会中南和地区結成のいきさつ」 『同窓会報』第1号 巽 典三 昭和25年卒
- # 「奈良地区同窓会の発足と現状」 『同窓会報』第2号 喜多野邦夫 昭和29年卒
- # 「北和会だより」 『同窓会報』第7号 吉田 宏 昭和26年卒
- # 「奈良地区同窓会」 『同窓会報』第38号 平野貞治 昭和28年卒
- # 「奈良地区同窓会」 『同窓会報』第42号・47号 北村 弥 昭和43年卒
- # 「奈良地区同窓会」、「奈良医大奈良地区同窓会総会」

- 『厳檀』第50号・52号・54号・56号・58号・60号・62号・64号・66号 北村 弥 昭和43年卒
- # 「奈良医大奈良地区同窓会総会」 『厳檀』第68号・70号・72号 井谷 均 昭和51年卒

《大阪地区同窓会関係》

大阪地区同窓会（阪奈会）に関する同窓会報への初めての記載は、薄 司朗（昭和26年卒）による『同窓会報』第2号の「阪奈会の沿革」にある。その内容は「阪奈会」が結成されたのは昭和44年にさかのぼり、大阪府下で活動している卒業生の結束を図り、大学同窓会の発足を期待し支援することに要約されている。当時、木下為弘（昭和26年卒）、川崎芳春（昭和27年卒）、原省吾（昭和29年卒）、阿部圭助（昭和29年卒）の4名が発起人として名を連ねている。その後、年1回の総会をはじめとして精力的に活動が続けられ、引き続き野崎瞭一（昭和31年卒）、可児敏紀（昭和43年卒）、村上 叡（昭和37年卒）により活動報告が掲載されている。以降、新たに会長に就任した村田省吾（昭和47年卒）により『厳檀』第53号から79号に渡って「阪奈会通常総会を終えて」、「阪奈会保険医療懇談会」の原則年2回の活動が継続して報告されている。

特に『厳檀』第71号には『阪奈会創立50周年記念総会を開催』とのタイトルで、阪奈会発足以来の経緯や活動状況が4頁にわたり報告されている。

コロナ禍による中断があり、令和5年7月に通常総会が再開され、令和6年も4月に保険医療懇談会、7月に通常総会が開催されている。

〈『同窓会報』・『厳檀』 掲載〉

- # 「阪奈会の沿革」 『同窓会報』第2号 薄 司朗 昭和26年卒
- # 「阪奈会総会報告」 『同窓会報』第5号 野崎瞭一 昭和31年卒

#「阪奈会」 『同窓会報』第16号 可児敏紀 昭和43年卒

#「伝統ある阪奈会の会長に就任して」 『同窓会報』第23号 可児敏紀 昭和43年卒

#「阪奈会の歩み」『厳樞』第52号 村上 叡 昭和37年卒

#「阪奈会通常総会を終えて」

『厳樞』第53号・55号・57号・59号・63号・65号・67号・69号・71号・74号・77号・79号

村田省吾 昭和47年卒

#「阪奈会 保険医療懇談会を開催」

『厳樞』第62号・64号・66号・68号・70号・78号 村田省吾 昭和47年卒

《京都・滋賀地区同窓会関係》

同窓会報『厳樞』に「京滋奈」に関する記事が掲載されたのは、土井 渉（昭和50年卒）により第50号が初めてであるが、記載内容によれば、当会は浦川博正（昭和28年卒）を初代会長として既に25回の開催を重ね、今後も年1回の定例総会を継続する予定とある。

引き続き、土井 渉（昭和50年卒）、玉木京子（昭和54年卒）、本郷 誠（昭和50年卒）、松尾祥弘（平成元年卒）、赤井靖宏（平成元年卒）により「京滋奈」の総会報告が掲載されている。

掲載は無いが当会は令和5年11月に再開され、次年度の開催日も決まっている。

〈『同窓会報』・『厳樞』 掲載〉

#「平成20年度 京滋奈会総会 報告」 『厳樞』第50号・52号 土井 渉 昭和50年卒

#「京滋奈会総会 報告」 『厳樞』第54号 玉木京子 昭和54年卒

#「京滋奈会総会23年度報告」 『厳樞』第56号 本郷 誠 昭和50年卒

#「京滋奈会総会24年度報告」 『厳樞』第58号 玉木京子 昭和54年卒

#「平成27年度京滋奈会記 夢に賭ける覚悟」 『厳樞』第64号

#「平成28年度京滋奈会記 地震列島に生きる」 『厳樞』第66号

#「平成29年度京滋奈会記 変化はある日、突然に」 『厳樞』第68号 松尾祥弘 平成元年卒

#「京滋奈会からの報告」 『厳樞』第70号・72号 赤井靖宏 平成元年卒

《中国・四国地区同窓会関係》

平成28年9月に第1回「岡山支部同窓会」が開催された。この会は小濱啓二（昭和39年卒）を発起人、上村史朗（昭和61年卒）を会長として発足した。その後、この会を岡山県に限らず中国地方全体に対象を拡げることが検討され、平成30年9月に第1回「中国支部同窓会」が開催された。やむを得ない中断の時期があったが、更に四国地区を含めて令和6年10月に再開が予定されている。

〈『同窓会報』・『厳樞』 掲載〉

#「第1回岡山支部同窓会 設立の報告」 『厳樞』第65号

#「第1回中国支部同窓会 設立の報告」 『厳樞』第69号 上村史朗 昭和61年卒

《名古屋地区同窓会関係》

名古屋地区同窓会を「名奈会」と名付け、愛知・岐阜・三重・静岡県を含む東海地区同窓会の会合に関しては、馬嶋 保（昭和27年卒）により『同窓会報』第1号に掲載されている。母校を離れ医療に携わっている卒業生の結束を図りながら大学同窓会の再建を渴望し、その支援と協力を惜しまないとする内容である。

その後、『同窓会報』第12号に同氏により「中部飛鳥会トピックニュース」を見るが、以降、野村知秀（昭和54年卒）の「東海三県同窓会の報告」として『厳樞』第65号まで掲載が途絶えており、会合の経過は不明である。

〈『同窓会報』・『厳樞』 掲載〉

「名奈会より同窓会再建に期待して」 『同窓会報』 第1号

「中部飛鳥会トピックニュース」 『同窓会報』 第12号 馬嶋 保 昭和27年卒

「東海三県同窓会の報告」 『厳樞』 第65号 野村知秀 昭和54年卒

《兵庫県地区同窓会関係》

『厳樞』 第62号に大倉完悦（昭和52年卒）により投稿された内容によると、平成27年2月に「神戸地区 OB 会」として行われた当会は第2回目であり、本庄昭（昭和45年卒）を会長として発足している。少しさかのぼれば神戸市・芦屋市・西宮市・尼崎市の合同 OB 会が、過去に数回開催されていたとのことである。

「神戸地区 OB 会」は、その後「神戸きさらぎ（OB）会」、「神戸地区同窓会（如月会）」と名称変更して令和2年2月に第7回を開催した報告がある。そして同窓会報への投稿は無いが令和6年2月に村田正典（平成3年卒）を新幹事として再開している。

〈『同窓会報』・『厳樞』 掲載〉

「神戸地区 OB 会」 『厳樞』 第62号

「第3回神戸地区 OB 会」 『厳樞』 第64号

「第6回神戸きさらぎ（OB）会の報告」 『厳樞』 第70号

「第7回神戸地区同窓会（如月会）」 『厳樞』 第72号 大倉完悦 昭和52年卒

《九州地区同窓会関係》

「九州地区同窓会」の設立を期して、平成27年2月に保利喜英（昭和41年卒）を世話役として第1回の会合が博多市で開催された。今後は九州各地で開催したいとの考えが示された。翌年、同氏により唐津市にて第2回の会合が行われ、更に永井康之・淳子（平成6年卒）により沖縄・山口県在住の同窓生も参加し別府市にてにぎやかに第3回が、そして佐々木達郎（昭和50年卒）により宮崎市で令和元年9月に第4回が開催された。その後は残念ながら諸般の事情により途絶えている。

〈『同窓会報』・『厳樞』 掲載〉

「奈良県立医科大学九州地区同窓会設立」 『厳樞』 第62・64号 保利喜英 昭和41年卒

「第3回奈良県立医科大学九州・山口・沖縄地区同窓会」 『厳樞』 第67号

永井康之・淳子 平成6年卒

「奈良県立医科大学九州・沖縄地区同窓会」 『厳樞』 第73号 佐々木達郎 昭和50年卒

【あとがき】

ふりかえってみますと、同じ学舎で学び青春時代を過ごした多くの卒業生が大学を離れた後に各地域で医療活動をされている中に、お互いを更に高めあい親睦を深め大学の現況に関心を持たれる心情が沸くのは自然の流れではないでしょうか。

現在活動されている各地区同窓会の今後の継続と更なる発展を期待し、今後新たな地域での会の発足を支援していきます。

地区同窓会設立・支援委員会